

## 第4回文教厚生常任委員会会議録

令和7年4月17日

### ○事 件

所管課報告事項

(1) 内科医師体制について（八雲総合病院）

### ○出席委員（8名）

委員長 赤 井 睦 美 君  
倉 地 清 子 君  
関 口 正 博 君  
黒 島 竹 満 君

副委員長 佐 藤 智 子 君  
齋 藤 實 君  
大久保 建 一 君  
能登谷 正 人 君

### ○出席委員外議員（3名）

議長 千 葉 隆 君  
宮 本 雅 晴 君

牧 野 仁 君

### ○出席説明員（4名）

総合病院事務長 竹 内 伸 大 君  
総合病院地域医療連携課長 佐々木 裕 一 君

総合病院庶務課長 長谷川 信 義 君  
総合病院医事課長 加 藤 貴 久 君

### ○出席事務局職員

事務局長 野 口 義 人 君

議事係長 千 代 貴 大 君

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（赤井睦美君） おはようございます。  
それでは、第 4 回文教厚生常任委員会を始めます。

◎ 所管課報告事項

【総合病院職員入室】

○委員長（赤井睦美君） 早速ですけれども、総合病院の方から内科医師体制についてご報告よろしく願いいたします。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 委員長、総合病院事務長。

○委員長（赤井睦美君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） それでは、次第に基づきまして内科医師体制についてご報告申し上げたいというふうに存じます。

1 点目は大変残念ではございますが、内科常勤医師 2 名の退職の報告でございます。1 人目は、内科部長村上正道医師でありまして、3 月をもって診療を終了してございます。2 人目は、内科医長齊藤圭介医師でありまして、4 月末をもって診療を終了することとなっております。

2 点目は医師の採用の関係でございます。4 月 1 日付で、循環器内科兼内科医師として天野亘医師 67 歳を採用してございます。天野医師におきましては、循環器内科の専門ではありますが、これまで広く一般内科の診療をしてこられた経験もあることから、当院診療業務におきまして、内科全般への対応も含めていただくものでございます。なお勤務日に関しましては、火曜日から金曜日となるものでございます。

以上の状況から常勤内科医師 2 名の退職後における内科常勤体制は、内科常勤医師 1 名兼任医師 1 名の 2 名体制となりますことから、大変厳しい状況であります。

このことに対応した対策であります。外部医師招聘といたしまして、北海道大学第二外科のご協力をいただき、月曜日、水曜日、金曜日の各日中におきまして、緊急の医師派遣をいただくことが叶いました。また、当院外科におきましても、内科系疾患の入院をカバーすることとしております。

現在の内科常勤医師招聘活動であります。当院に関心をお示しいただいております、医師 1 名と近く事務長面談を行う予定としてございます。当該医師につきましては、現在のところ当院への着任が確定をしてございませんが、招聘に向けて努力してまいりたいと存じます。

その他医師体制についての関連でございますが、常勤診療科につきましては、多少の医局関連人事がございましたが、人員数に変更はございません。また、非常勤診療科におきましても現状が維持される体制となっております。

なお、初期臨床研修医に関しましては、新たに 2 名を 4 月 1 日付で採用いたしました。以上簡単でございますが、実施体制に関する説明といたします。よろしく願いいたします。

○委員長（赤井睦美君） はい、ありがとうございます。

このことについて質問ご意見ありませんか。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） 差し支えない程度で、その退職の理由を教えてください。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 今回退職される2名の医師につきましては、それぞれ退職理由につきましては、一身上の都合というふうになってございます。

いろいろとお話は伺っているところでございますが、ご家庭の事情ですとか、個人情報も含まれるため、この場での説明は差し控えたいというふうに存じます。ご理解よろしく願いいたします。

○委員長（赤井睦美君） 他にありませんか。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） 常勤の内科医師がゼロになるところを今回この1名採用が決まったということで、なかなかお医者さんに来てもらうということが難しい中、大変ご苦勞されてるんだなというふうには思うんですけども、今回循環器も専門でやってこられたという方で期待もしたいと思うんですけど、1人でまたやっていくということで、今後もその医師の招聘については、大変でしょうけども頑張っていたきたいなというふうに思うのと。

あと、北大の第二外科から月、水、金で緊急のドクター派遣ということですけど、これは1名とかなんですか。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） まず内科関連医師の招聘につきましては、今に始まったことではなくて、これまでも大変苦慮をしてきてございました。

その中で様々な人材派遣業者の方にもアプローチをした中で、今回ご紹介をいただいた中で採用に結びつけることができたことは、この厳しい状況の中では一つ幸いなことなのかなというふうには考えてございます。

2点目の北大第二外科の緊急派遣でございますけれども、月曜日、水曜日、金曜日それぞれ別なドクターが派遣されることになってございます。

業務の内容といたしましては、午前中は、内科の担当の外来をしていただくことと、午後につきましては、院内で内科の救急の担当をしていただくということになってございます。

それぞれ少し平易な表現ですが、各日帰りで帰ることになっておりまして、仮に現在の状況ですと、月曜日の外来、月曜日限らず、午前中の外来、午後の救急をやっていただいて、その中で入院の症例がある場合は、外科の先生方でフォローいただくような体制となっておりますので、内科医師が非常に少なくなっている中で、外科の応援をいただける、それと加えて外部のそういった資源を活用できるということは非常に助かっているなということでございます。

期限につきましては、今のところ当面の間というふうにしてございますので、引き続き第二内科と協議をしながら取り組みを進めてまいりたいというふうに考えてます。よろしく願いいたします。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） 全て日帰りということなんですね。月曜日、水曜日、金曜日は交代ですけども、3名の方で月曜日担当って感じっていうことでいいんですよね。

○委員長（赤井睦美君） 答弁はよろしいですか。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 他にありませんか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） どうしても聞き慣れたことでもってあるんで、こういう入れ替えってのは、しょうがないのかなと思いますけれども。

ちょっと関連してっていう形にはなるんでしょうが、八雲総合病院というのは、総合病院の名を冠していながら、受付の横の一番いい場所を整形外科が占めている。どうしても内科というものが、本来であれば総合病院というのは、内科が一番いいところに来てっていうのがやっぱり普通じゃないのかなっていうふうに思うんだけど、これは当初からそういうことではあるんでしょうけれども。

これ内科医師今回2名やってる方々も含めて辞められたっていうことも含めて、僕そういうことをちょっと言われたことあるんですよ。何で総合病院っていうのは、整形外科が1丁目1番地にあるんだというのを聞いたことあるんですよ。内科がなんであんな引っ込んだところにあるんですか。

もちろん、いろいろなやり取りがあってこういうことになってる歴史的なことがあって、っていうのはわかるんですが、その部分っていうのはどうなのでしょう。

内科医師にとって、いろんな課同士のプライドとかそういうものってあるんでしょうけれども、なぜ整形外科が。整形外科の患者が多いというのもよくわかるし、どうしても来る方々がお年寄りが多いということ事情もあるんでしょうけど、なんであの位置に整形外科があって、内科が奥っていう形になってるのでしょうかね。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 中央棟の改築、平成27年に竣工いたしました。その際、私の今すぐ答弁は非常に無責任なんですけども、当時の設計思想ですとか建て替えに私自身関知をしてございませんので、どういうことでそういう経緯になったかというのは今この場でご答弁することはできません。

ただ一つ、私が考える一つの理由としては、まず整形外科に受診をされる方っていうのは、運動器に何らかの障害あるいは不具合を抱えているということで、長い導線をご自身で歩いてくるとか、あとどうしても車椅子で受診をしなければならないときに長い導線を辿っ

てくるということが非常に負担になるのかなと。そういうことから正面玄関の近くに整形外科を配置したのかなというふうには想像してございます。

もう一つ、内科のドクターのプライドということでございましたけども、ある意味そういう推測あるいは憶測というのはあるのかもしれませんが、私が聞いている範囲では例えばこの場所に内科の診療室があることで大変困ってるだとか、そういうことは聞いてございません。

私のアンテナから低いということも一方ではあるかも知れませんが、今のところはそういう不具合はその診療科の場所によっての不具合ですとか、医師の軋轢ですとか、そういうことは、私自身は聞き及んでございませんので、よろしくお願いしたいと存じます。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 的外れだったらごめんなさい。あともう一つお伺いさせてください。

この医師というのはなかなか招聘難しいということで、今、初期診療における遠隔診療だとかっていうものを可能性というのは、よく前から議論されていることだと思いますけれども、これを八雲総合病院として導入する、今回は北大からの派遣ということがあるということでございますが、どうしても診療を重ねていく中で、医師の診療が必要だということとは重々承知の上で、ある一定の部分、例えば最初の診療だとかを遠隔診療で行うということも、ものすごくこういう状況になったときにはなおさら有効性が高いんじゃないかなと思うんですけどその辺はどうでしょうか。

○総合病院事務長（竹内伸大君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） まず遠隔診療に関しましては過去に比べて、非常に診療報酬書のハードルは現在下がってきてございます。

一つ、問題を提起いたしますと、遠隔診療を受けられる患者さん側で、そういうハードウェアの問題が一つあるというふうに思います。どうしてもインターネット回線で動画を送受信する必要がございますので、そういったハードウェアの環境がまず患者様側にあるということが一つ課題になります。

一つのモデルケースとしては、例えば、これは具体的に検討している、まだ検討し始めることではございませんけども、ある意味例えば熊石の国保病院で患者さんを集めていただくと。そこで採血を始めとした検査をしていただいて、検査データをきちんと電子カルテですとか、ある意味違うツールでもいいんですけども、検査データを病院の中で相互に共有できる状況が作れば遠隔診療の幅っていうのは広がってくるというふうに思います。

私の経験上でしかお話できませんけども、やはり内科診療であれば、血液検査のデータですとか、例えばCT、MRIですとか、そういった画像の検査結果に基づいて診断をきちんとつけてくんだということでありますので、検査データがきちんと外部から当院に提供されるか、あるいは共有されるかといった環境が整えば遠隔診療の幅っていうのは広がってくるなというふうに考えてございます。

もう一つ、ハードウェアの問題につきましては、現在、他の病院もおそらくそうしてるというふうに思いますが、情報漏えいを防ぐために電子カルテのネットワーク情報というの

は一般のインターネット回線に繋いでございません。すなわち、要因に情報をやり取りする  
ってということが非常に電子上は難しいというふうになってございますので、例えばそれを  
FAXでやり取りするとか、そういった工夫が一つ必要になるのかなと。

ただ、今DXが叫ばれてる中で、また紙の情報の伝達に頼るようになるのかということも  
また本末転倒というふうに思いますので、そういった電子カルテをどこに置くか、ネットワ  
ーク上にどこに展開するかというのも含めて検討しながら、病院の連携を深めていければ  
なというふうに思ってます。

幸いにして、詳しい国保病院の電子カルテも、当院と同じ仕様の電子カルテを用いて運用  
してございますので、そういう課題が解決されれば、各々の業務のやり取りというのは容  
易になるかなというふうに思います。

これは一つ、医療機関をサテライトとして見立てた例であります。もう一つ最初に戻りま  
すけども、個々人の自宅からオンライン診療するときは、やはりそのハードウェアに一つ制  
約が加わる、あるいは、例えば独居のお年寄り、お年寄りのご夫婦の世帯だがあるとすれば、  
例えば身近におられる住民の方ですとか、ご家族の方がそういう接続のサポートをしてい  
ただければ良いのかなと思いますが、やはり検査データをどういうふうに読み解いていく  
とか、病床の変化をどういうふうに検査データから測定していくのかっていうのはやっぱ  
り必須事項でございますので、この辺につきましては、更なる検討が必要なのかなというふ  
うに思います。

ただ、オンライン診療の今後の発展性に関しましては、全く否定するものではございませ  
ん。特に人口がどんどん減って、いろいろな通院の機会ですとか、手段ですとか、そういう  
ことがもっと狭められるような時代に突入するというような危惧を私自身思っております  
ので、更なる研究を続けていきたいなというふうに考えてございます。よろしくお願いいたします。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 医師招聘が非常にハードルが高くなって、これからもなっていく  
ことは当然想像できることでもありますし、遠隔診療は地域の病院こそ積極的にやっ  
ぱり一段進んだ研究というものを進めていかなきゃなんないと思いますんで、ぜひ八雲総  
合病院もそういうことにちゃんと先陣を切れるようなもう1段階上の検討をお願いしたい  
なと思いますけど、どうでしょうか。

○総合病院事務長（竹内伸大君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 時間をお金に置き換えたときに全てがコストに計算され  
るというふうに思うんですが、仮に当院の内科医師が充足したときに熊石国保病院に派遣  
をします。現に医師派遣、週に1回実施してますし、臨時の派遣や薬剤師もしてる  
というふうに思います。夏場ですと、概ね片道40分程度かかります。往復だけでその2倍か  
かりますので、オンラインできちんと診療ができる環境が整えば、派遣される医師、それと  
運転していく運転手の時間を削減することは当然できるというふうに思いますので、そこ  
については非常にコストカットの面でも需要になるかというふうに思っております。

ただいまご提言いただきましたことは、しっかりと胸に留めて検討してまいりたいというふうに存じますので、よろしくお願いします。

○委員長（赤井睦美君） 他にありませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） なければ、この点についてはこれで終わります。

その他で何かありますか。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） 看護師さんとか病院職員のユニフォームについてなんですけども、何かのときに今後はもっと支給したいみたいな発言があったと思うんですけど、職員に対するユニフォームっていうのは、何点ぐらい支給されてるものなんですか。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 委員長、総合病院庶務課長。

○委員長（赤井睦美君） 総合病院庶務課長。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 予算特別委員会の最後、ユニフォームの件のお話があったと思いますけども、現在看護師に関しましては、5着対応してございます。以上です。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） 5着って言うと、結構潤沢に支給されてるようなイメージですけども、さらにと言った真意は何でしょう。

○総合病院事務長（竹内伸大君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 例えば勤務を終了した後に、クリーニングに出します。看護師の勤務というのは、例えば我々事務方のように、一定月曜日から金曜日までのウィークデーっていうところの勤務に縛られないところが当然でございます。

一部、外来の看護師のように事務方と同じような稼働しているような部署もございすけども、特に病棟ですとかの職員につきましてはローテーションで勤務しています。その中でどうしてもあの休みが重なったりだとか、いろんな状況の中で場合によっては、クリーニングが間に合わないケースがあるんじゃないかなというようなことも想像してございます。

その中で、これからも看護師ですとか、他のコメディカルの部署も含めてですけども、実際に自分たちのユニフォームがきちんとクリーニングに出して戻ってきてですとか、それと着数について過不足がないのかというようなことは引き続き、検討してまいりたいなというふうに思っています。

実際に、クリーニングをきちんと出すようにということの指導もしてございますが、いろんな勤務都合で出せない場合もあるかというふうには思います。ごくごく少数の例だと思いますけども、これは着数増やすというふうになればコストも嵩みますので、そういう部分も併せて検証していきたいなと。その中で強く、もう一着でもユニフォームが増えたときに、自分たちの仕事もう少し余裕出てくるんですよということが、客観的に判断されるようでしたら、そういうことを実行しますし、いやいや今実際には現状間に合ってるんだよ、で

すので当面様子見ていいですよ、ということを現場からあれば現行の制度を続けていきたいなというふうには思っています。

以上です。よろしくお願いします。

○委員長（赤井睦美君） 他にありませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） なければ、これで終わります。

ありがとうございました。

#### 【総合病院職員退室】

○委員長（赤井睦美君） それでは、今日は報告事項が1件しかないんですけども、このことについて何か特別ありますか。

（「なし」という声あり）

#### ◎ その他

○委員長（赤井睦美君） なければ次に進みたいと思います。

まず皆さんのお手元に、ケアラー支援、ケアラー条例に関することが3つプリントあると思うんですけども。

前に中村先生の講演をいただき、その後検討し、先生が作ってくださった案がとっても細かく丁寧に作ってもらったんですけど、もうちょっと簡素化して概念を強調して、こういうふうに事務局作っていただきました。

これでもしよければ、これを担当する課にこういう形でやっていきたいんですけど、と相談したいと思うんですね。今日はお渡しするだけなので、今月いっぱいにはここはこういうふうに直した方がいい、見直した方がいいっていう意見があれば千代係長の方に連絡ください。

ケアラー支援条例で中村先生が作ってくださったのが左側にあって、右側にこういうのはどうなのっていう八雲町の概念の条例が載ってますので、もし先生のこの意見は絶対載せた方がいいとか、逆に八雲町の方のここはなくてもいいんじゃないっていうのがあれば、皆さんお読みいただいて、よりよい条例を作っていきたいと思いますので、ぜひこれを熟読して、チェックしたもののご意見を今月いっばいに係長の方にお寄せください。

もしご意見がなければ、これで良しということで、主に住民生活課とか福祉課とか学校教育課とかに検討してもらうようにお渡ししたいと思います。それを基にまたみんなで話し合って、完成形に持っていければと思っています。

次、第2点ですけども、こないだ合同委員会があって、そのときは総務委員会の方の水産課のみの参加だったんですけども、こっちも、環境水道課で生ゴミと汚泥を出しているという関係もあって、資料請求って必要なのかわかっていうのを皆さんのご意見を聞いて、もしなければ、そのままあとは小委員会に任せて、小委員会の中から検討していただき



たいと思いますけど、分厚としてこういう資料があった方がいいんじゃないかっていうのがもしありましたら、皆さんの方から出していただきたいと思います。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） 小委員会は21日にある予定で、そこで揉んでからっていう話もあるから、そのときに資料が必要かどうか、何が必要かっていうのも出てくるのかなと思うので。

○議長（千葉 隆君） 委員でない人もいるから今、聞いてるんです。小委員会でない人もいるから今聞いている。

○委員長（赤井睦美君） そうそう、文厚として必要かなっていう。

○委員（倉地清子君） 文厚で。はい、わかりました。

○委員長（赤井睦美君） なければ。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） いいことに。や、もう請求しませんとは言いませんけれども、文厚としては特に請求はしない。もし小委員会から出てきて、こういうふうに資料が請求だったら、小委員会は請求権ないんですよね。だから、小委員会から出たらそれに従って請求するっていう形にします。

もう1枚ですけども、このあいだ予算委員会の際に出た、予算委員会での質疑なんですけど、ここで文厚として深掘りした方がいいんじゃないかっていうのは、もしありましたら、ここに一応出してるんですね。

例えば、地域作りは教育からという教育長の言葉があったが、その通りで最後にばかりお金を投入して教育にしっかりとお金を投入して欲しいって言ったら、町長が社会教育を中心に人作りをしていきたいっていう、一度もこういうことを、ちらっとおっしゃったことありますけど、具体的にどういうことを考えてるのかっていうのもさっぱりわからないので、こういうのをちょっと具体的に聞きたいとか。

福祉タクシーの助成もね、タクシー券を町内の循環バスっていうのはまだまだ時間がかかるから、タクシー券を検討したいということはタクシー券を増額するっていうことなのかとか、そういうこととか。

あと、放課後の子ども対策の熊石の方も今2ヶ所で保育園と小学校児童っていうのを見えますけれども、1ヶ所で見守っていく方向で考えていきたいのは、いつくらいからやるのかとか。

シルバープラザの音響もね、聞こえやすくして調査したいと言うけれども、それは新庁舎ができた場合に合わせて、実際どういうふうに取り組んでいくのかって両方のことを考えているかどうかとか、そういうことを委員会として調査すべきかどうかっていう。

もし皆さんが必要がないって言えば、それはそれでなしということではいいんですけど、もし必要な項目がありましたら、教えてください。

○議長（千葉 隆君） 委員長。

○委員長（赤井睦美君） 議長。

○議長（千葉 隆君） せっかく委員長がピックアップしてくれた部分もあるし、逆に町長がこういうふうに答えてても、全課の課でどういうふうに考えてるかわかんないから、このことを逆に言えば、各課に下ろしておいて、今どういう現状で町長はこういうふうに答えてるけども、今その後1ヶ月、2ヶ月経ってる状況の中でこういう方向を考えてるとか、全く原課ではそういう取り組みないとか、それを逆に聞くだけでもいいんじゃないのかなと思うんだよね。

今言ってもきっとどうかわかんないけども、やっぱり各課にこの部分を下ろしてみても、一回そういうやり方もあるのかなって、これを見て思ってる。

○委員長（赤井睦美君） そういう方法でよろしいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） ここには載せてないんですけども、ちょっと私個人的に気になるのが、熊石の義務教育学校なんですよね。

最初は義務教育学校、私達も視察に行っていていいなってすごく思ったんですけども、義務教育学校を作るって言って10年。だからあと3年後ですよ。

今熊石では小学生が29人、中学生が22人。3年たったら何人になるんだって考えたときに、果たして校舎をきつとどうにか少し変えてやるんだと思うんだけど、義務教育学校そのものが成り立たなくなるんじゃないかっていう心配がありまして、実際これどうなんだろうっていう。

○議長（千葉 隆君） あの。

○委員長（赤井睦美君） はい。

○議長（千葉 隆君） 赤井委員長が言うのももともとで、要するに、義務教育学校から普通の小学校に行くとか、その辺、行けないんじゃないのかなっていう、編入の部分もね。その辺説明を受けてないよね、うちら。要するに、他の市のやつで見れば一斉に義務教育学校だけ、義務教育学校にしちゃったんだよね。

なぜそういうふうにするかって言ったら、小中学校が健在する部分で、義務教育学校から普通の小学校なら小学校をそこだけに残せないって。要は、もう義務教育学校作っちゃったら熊石に熊石中学校は八雲に来るけど、熊石小学校っていうのはもう存在しなくなるっていうような、それがどこまで法律っていうか今の制度で許されるのかって言ったら、なんか許されないっていうような感じがあつて。

例えば、中規模の都市で全部一斉に義務教育学校にしちゃってるんだよね。だからその辺も含めて、八雲地区の再編も絡んで後回しになってる部分あるんで、もしも熊石の部分で少なくなったら、一遍に小中学校も全部一遍にこっちにしなきゃなんない。学校の存続が駄目だったら、それも義務教育学校にしか行けない。

そうすると、八雲地区で小学校と中学校で分けてたときに、熊石の人たちは新たにできた、落部で例えば義務教育学校できたとしたら、落部の義務教育学校にしか行けないとか、そういう問題も偏在するのかなとか。よくわからないよ。きっとそういうことも検討してると思うんで、先行して。だからそれも、もう一回説明求めた方がいいのかなって。

○委員長（赤井睦美君） あのときは、前の教育長さんですけどお話では、教員を集めるのが今すごく大変で、義務教育学校にすると教頭先生が1人いなくても大丈夫だし、教員も少

なくても大丈夫なんだっていう説明があって、だけど今回、八雲小学校の校長先生が退職されて一般教諭として残ると言って、やっと八雲小学校の教員数がギリギリでぴったりだったんですね。

ところが、元校長先生が教育長になるということで1人減ったときに、ものすごい大変。全道的に教員が足りないからどこからが引っ張ってくるっていうのも、お互いの奪い合いになってそれはできないっていうことが相当苦勞して、退職された方とかそういうところから選んできたっていうかね、そういう話もあって。

だから義務教育学校にしたからって教員が足りるとか、そういうもう時代ではなくなっちゃって、お医者さんも足りないけど学校の先生も足りないっていうところだから、何か今お金かけて変えて、もうちょっと100人単位だったら義務教育学校もいいと思うんですけど、50人以下ってことは果たして、その先もっと子どもたちもいっぱい生まれて、最低でも1年生10人は入ってくるよっていう状況だったらいいんだけど、もうそういう状況ではないから、私は賛成だったんですけども、実際これはと考えたときに賛成してまづかったんじゃないかと自己反省してるんですね。だから、そこもちょっと調べたいと思うんですけど、どうでしょう。落部も含めてね。

○委員（関口正博君） 学校のこの適正配置も含めて、そういう話あれば佐藤委員が怒っちゃうんであんまり言いたくなくて、やっぱりしっかりとその辺も含めた議論っていうのはやっぱり必要だと思いますんで、もう目に見える未来だから。

目に見える未来に対しては、地域への配慮とかじゃなくて、やっぱり先行してちゃんと我々は町民に言いづらいことであってもやっぱり言っていくべきだし、これはやっぱり熊石だろうが落部だろうがどこだろうが関係なく、将来の八雲町の教育っていうことをどういう体制で行っていくかも含めて予測できるんだから、ここはやっぱりちゃんと手当て絶対しなきゃいけないですよ。いろんな意見は、当然教育だからある。僕はそれひっくり返してでも、熊石にとっていい形っていうのはやっぱり模索するべきだろうなとは思っています。

○議長（千葉 隆君） いいですか。

○委員長（赤井睦美君） 議長。

○議長（千葉 隆君） 結局、統廃合は免れないけども、どことどうやって組み合わせるかかっていうさ、順番が間違えば、そのときだけいいけども後で困るみたいな、そういうこともあるんじゃないかなっていう部分を、5年10年見たときにはそうもわかんないけども、7年目以降15年先見たときには組替え、順番間違ったなとか。ただ想定できないので、結局今の0歳児から6歳児までしかわからないから、そのところの難しさはあるけども、その部分も、今の20代の人たちがその地域に何人いるかっていうことの想定も入ってないような気がするんだよね。

だから、今の状況から見れば義務教育校にしなきゃいけないのはわかるんだけど、5年間我慢すれば、逆に言えば、小学校は八雲小学校に行けるとか、さっきの事例じゃないけども、中学校は八雲中学校に行けるとか。そういうこともね、少し立ち止まった方がいいかもわかんないし、説明をやっぱり聞いた方がいいんじゃないかなと思うんだよね。

○委員長（赤井睦美君）　ということで、私達も教育委員会から聞くっていうのももちろんあるんですけども、地域と一回話し合うとかそういう時間もあった方がいいかなとは思っています。

　　以前も話したことがあるので、両方を含めてやっていけたらと思います。

○議長（千葉　隆君）　それを聞くときにさ、今の地域の人たちとどこまで教育委員会で、どこの地域のどこまで話してるのか、こっちの地域とはどこまで話しているのか、学校単位でね、そこまで聞いた方がいいんじゃないかな。

○委員長（赤井睦美君）　それこそ地域で話聞いてますか、義務教育学校の話。

○委員（斎藤　實君）　多少は聞いているけれども、町民自体が義務教育学校っていうのがどういうものなのかっていうところはまだわかってないみたい。なんかそういう話はあるねって言った。

○委員長（赤井睦美君）　前の説明だと、1～2、3～4、5～6、7～8、そして9だけが1学年で授業するって。

　　義務教育学校にする一番の理由は、中学校が複式になるからっていう理由だったんですけど、義務教育学校で考えたら7～8って複式で9だけって、それが可能であれば中学校だって1～2と、あと3は特別に進学とかあるから、そういうやり方だって可能なんじゃないかって勝手に思うんですけども、そういうことも含めて説明していただくということによろしいですか。

○委員（関口正博君）　ちょっと他にいいですか。

○委員長（赤井睦美君）　はい。

○委員（関口正博君）　すいません。この中で、地域部活動推進事業に関わると思うんですけど、今回新聞に、森高校と八雲高校の野球部の合同チームの話が出てました。森の元プロ野球選手の吉田選手っていうんですけど、地域おこし協力隊として入って、八雲に声をかけていただいてっていう形かどうかわかんないんですけど、地域として部活動支援の学校のあり方も含まるんだろうけど、ちゃんとやっていかないといけないのかなと。

　　せっかくそうやって手を差し伸べていただいているものに対して、八雲は口は出さないけど金はちゃんと出すから、みたいなぐらいの姿勢は必要だろうなというふうに思うんですよね。

　　これからは部活もそういう形になっていくでしょうし、これは高校なんで道立なんでまだ踏み込めない領域とかいろいろあるのかもしれないけど、地域としてこういうスポーツやりたいって子どもたちに対しては、指導者も含めて、やっぱりしっかり支援する体制は僕は絶対必要だろうなと思うんですよね。

　　僕はすごくありがたいと思って。野球やりたいって子どもっているんですよ。一応送迎の話とかいろいろ出てくるだろうし、そういうものを支援はやっぱちゃんとしていただきたいなと。だから、ここら辺は町長にはしっかりお願いしたいなっていうのがまず一点と。

　　これも学生の親から聞いたんだけど、スキー授業に対して、今は学校の授業では1回しかスキー授業やらないと。だけども子どもって成長早いから1年に1回しか、スキーが好きで通ってる方たちはいいんだけど、そうじゃない人たちは、毎年1回しか授業ないのに毎年買わなきゃなんないってどうなってんだよと。

今バス高いからとかそういう事情あるでしょう、送迎の。だとしたら、もしやりたいという要望があるのであれば、バス代ぐらいちゃんと町で、高いのであれば、高くてもいいから、出してあげましょうよと。でなければ、町でそこまでの結論を持てないのであれば、こんなスキー授業やめてしまえと、やりたい人だけやらしとけと。でもそれは、ちゃんと明確に示してやるべきだろうな。曖昧なままで、親の負担ばかり増えていくような、そんなのだったらどうなんだろうかってずっと言われてるんですけどね。

○委員（大久保健一君） バス高いからやらないって言ってるのは高校の話だよ。

○委員（関口正博君） そうなの。

○委員（大久保健一君） 小、中学校はスクールバスで出てっから。

○委員（関口正博君） この1回しかやんないっていうのは先生の都合なの。

○委員（大久保健一君） 多分、学習時間の問題でないかなと思う。

○委員長（赤井睦美君） あと落部はさ、スクールバスに人は乗るけどスキーは親が運ぶとかって前に言ってたよね。親がトラックに乗せてスキーをね、運んであげてっていうことをPTAからお話があって、スキーも一緒に運んで欲しいって、普通だよね。それは普通の意見だと思うけど。

○委員（関口正博君） スキーに関しては昔から不満は大きい。

○委員（倉地清子君） 確かに声はあります。スキー板が必ず年々成長するから買っていかなくちゃいけなくて、負担大きいし、ウェアもそうだし。

○委員長（赤井睦美君） だからさ、一時卒業生がスキーを置いて欲しいって言ったけど学校が、それを預かる場所がないって言って断ったんだよね。

○委員（倉地清子君） 一時は集めてたんですけどね。管理が難しいということ。

○委員（関口正博君） 町長は教育が大事だというのは社会教育って言ってるけど、学校教育の方がもっと大事だと思うんで、しっかりそういう細かい部分からでもちゃんと予算つけていただけるような。

○委員（大久保健一君） そういう答弁しただけで担当課にきつと指示も出してないんじゃないかな。

○委員（関口正博君） 全く興味ないからね。

○議長（千葉 隆君） だから先に原課に聞いた方がいいんだ。

○委員長（赤井睦美君） でも答えたら本当はやんなくや駄目だよね。いつもやってないけどさ。町長は。

○委員（関口正博君） 全くその通りです。

○委員長（赤井睦美君） そうやって言うけどやってない。

○議長（千葉 隆君） 蛇足だけでも、さっきのスポーツの関係、スポーツ議連で今のスポーツ協会っていうか、昔の体育協会と話したんだわ。育成者が足りないって。それ以降、少年団だとかそういう人たちと話して現状聞こうってなったけど、それ以降なんもやってないんだ、スポーツ議連で。

○委員（関口正博君） なんもちょされてないんでしょう。だから、今やってる人は本当全員でいろんなスポーツを指導してもらってる。

○議長（千葉 隆君） もう少しスポーツ議連でもさ、調査した方がいいと思うし、八雲町も協力隊でちょっと野球の関係ではやったけども、来るような雰囲気だったけど駄目だったっていうか。だからね、そういう状況だから、少し何かやれば いいけどな。

○委員（斎藤 實君） スポーツ少年団も指導者は少なくて困ってるっていう状況はあるみたい。

○委員（関口正博君） 元々なんの、極端なこと言えば、報酬も満足に取られない中で。

○委員（大久保健一君） 全くのボランティアだからね。逆に出費があるぐらいだから。

○委員（斎藤 實君） 好きだからやってる。

○委員長（赤井睦美君） うん、本当にその通りです。

○委員（倉地清子君） あと子どもがやってる、いるうちは、指導者としていう感じ。だから自分の子どもが卒業したら一緒に辞めちゃうっていうのがあるあるだから。

○委員（関口正博君） 議員もその都度その都度そういうこと言ってるんだけど、なかなか形として。今回この森と八雲の合同チームの件っていうのは、すごく注目してる。

（何か言う声あり）

○委員長（赤井睦美君） じゃあスポーツ議連も一緒に調査していきたいと思います。他にありませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） なければ事務局から次回の日程を教えてください。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 委員長、議会事務局。

○委員長（赤井睦美君） はい。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 次回ですが、5月22日木曜日午前10時に文厚を予定させてもらってますのでお願いします。

（何か言う声あり）

○委員長（赤井睦美君） それでは皆さん、ケアラー条例について今月いっぱいですから、よろしくお願いします。

今日はこれで終わります。ありがとうございました。

〔 閉会 午前10時50分 〕